



円谷英二監督親族 円谷 誠さん

特撮で魅力あるふるさとに

ウルトラマンに会える街を目指して、市民の皆様と本市を訪れる人たちがともに特撮の楽しみを分かち合ってきました。また、円谷英二ミュージアムなどが完成し、多くの方々が英二さんの世界に触れていることを目の当たりにして、本当に有り難く思っています。

これまで特撮文化の普及にご尽力いただいた方々、英二さんの作品のファンの方々のお力添えで、今後ますます魅力あるふるさとになれば良いなと改めて思っています。

思い出される57年前

幸吉がオリンピックのマラソンで銅メダルを獲得したのは57年前のことですが、東京オリンピックが開催される年に、このような名誉市民章をいただき感激しております。57年前、マラソンの表彰式で、大観衆に向かって笑顔で手を振る幸吉の姿が思い出されます。

また、3月の聖火リレーでは、盟友の君原健二さんがユニフォームの下に幸吉の写真を忍ばせ、一緒に走っていただきました。重ねての栄誉に、天国にいる幸吉も、さぞ喜んでいることと思います。



円谷幸吉選手親族 円谷喜久造さん

イベントを開催しました

ウルトラマンへの手紙

7月7日、ウルトラマン55周年特別企画として、全国から募集したウルトラマンへの手紙1,570通を、地球人を代表して橋本市長からウルトラの父に贈呈しました。手紙の一部は、9月23日(木)からtetteで展示します。



円谷幸吉写真展・トークイベント

7月4日、写真展の開幕に合わせたトークイベントで、君原健二さんが自身の小学生時代や幸吉選手とのエピソードなどを語りました。

写真展には君原さんの貴重な資料も展示され、二人の名ランナーの軌跡がよみがえりました。



特撮の神様 円谷英二

1901年、須賀川市(旧須賀川町)生まれ。映画界へ入った後は、撮影技術を研究し「ハワイ・マレー沖海戦」など特殊撮影技術を駆使した数々の作品を手掛けます。1954年に公開された特撮映画「ゴジラ」で特殊技術を担当し、1955年の「ゴジラの逆襲」では「特技監督」を務めました。

1963年に株式会社円谷特技プロダクションを設立。

1966年に放送が開始された「ウルトラマン」は、今年で55周年を迎えました。多くの映画で特技監督・監修を務め、日本映画界において特撮の礎を築き「特撮の神様」と称されています。

栄光の銅メダリスト 円谷幸吉

1940年、須賀川市(旧須賀川町)生まれ。須賀川高等学校で陸上競技部に入り、卒業後は陸上自衛隊に入隊し、陸上競技を続け

ました。その後、自衛隊体育学校の開校と同時に、第一期生として入学する一方、中央大学経済学部にも入学し、陸上競技と勉学に励みながら、数多くの大会で、日本記録や世界記録を塗り替えました。

「二人の円谷」に

思いを馳せて

特撮の礎を築いた英二監督。1964年の東京オリンピックで銅メダルを獲得した幸吉選手。二人の活躍は、今もなお多くの人に夢や希望を与えています。

円谷英二ミュージアムや円谷幸吉メモリアルホールを訪れ、手掛けた作品や打ち立てた記録を改めて振り返り、郷土の誇りである二人の円谷の功績に触れてみてはいかがでしょうか。



円谷英二

©円谷プロ

「二人の円谷」顕彰事業



わたしたちの誇るべき「二人の円谷」

企画政策課 ☎(88)9131

功績と栄誉を称えて

市では、本市に縁故のある人で、広く社会文化の興隆に寄与された人を、郷土の誇りとして「名誉市民」に推戴し、その功績と栄誉を称えています。

名誉市民章の授与は36年ぶり、1975年の坂本鉄蔵さん(育英事業創設の基となった資金の寄附者)と、1985年の澤田悌さん(国民金融公庫総裁や日本住宅公団総裁などを歴任)に続き、英二監督と幸吉選手が名誉市民となりました。

授与式には、二人のご親族が出席し、名誉市民章が授与されました。二人の名誉市民章は、ご親族の厚意により、それぞれ円谷英二ミュージアムと円谷幸吉メモリアルホールに展示される予定です。

「特撮の日」と幸吉選手の1964年東京オリンピックでのゼッケンナンバー「7」にちなみ、7月7日に英二監督と幸吉選手の須賀川市名誉市民章授与式を行いました。